



世界地図を見ながらASEANの国について勉強

世界とつながる 教室

セミナールームから 世界を知ろう

「ベトナムではどうやってごはんを食べるんですか？」

「私たちも箸を使うんですよ」

「えー、日本だけだと思ってた！」

夏休みの真ただ中、JICA北海道（札幌）のセミナールームに子どもたちの元気な声が響き渡る。この日集まったのは、札幌近郊の小学生29人。北海道とはいえ、猛暑の影響を受けて30度超えのこの日。しかし、そんな暑さも吹き飛ばす熱いイベントが行われた。

その名も「ジャイカで自由研究やっちゃおう」。夏休みの宿題を、国際協力に触れながら終わらせてしまおうという企画。テーマは、日本とも長年のつながりがある、ASEANだ。「学校の先生が教えてくれたの」「お母さんがインターネットで見つけて」。子どもたちは満面の笑みで、これから始まる。おもしろいこと、に期待をくくらせている。

1時間目は社会の時間。「皆さん、ASEANを知っていますか？」。スライド

国際協力で 自由研究やっちゃおう！

夏休みの自由研究、一体何をしたらいいのか分からない…。

小学生のころ、2学期直前になって慌てた経験はないだろうか。

そんな悩みを吹き飛ばしてくれるイベントが、北海道で行われた。

切り。「どんな遊びがはやってるの？」

「どんな食べ物が一番人気？」「日本と違うルールはある？」。日本から約3600キロ離れた国に思いをはせ、質問が飛び交っていた。

ベトナムの楽器を みんなで作ろう

部屋の後ろには、この日のためにそろえたアジアの楽器がいっぱい。自分の体より大きなものもあれば、手の平サイズのものもある。「こんなに大きい楽器を見たの初めて！キレイな音が出るんだね」。札幌市立平和通小学校の山口真奈美ちゃん（5年生）らは、休憩時間にも楽しそうに楽器を演奏していた。

そして2時間目、いよいよここからが自由研究の本番だ。「みんなでベトナムに昔から伝わる楽器、トルン、を作りましょう！」。トルンは数本の竹を組み合わせた打楽器。ベトナム中部の民族に古くから伝わるものだ。そんな伝統楽器を、なんと今日は、自分たちで作ってしまおうというのだ。材料は、クラフト紙、ストロー、ハンガー、ひも。身近に簡単に手に入るものばかりだ。

まずは、竹作り。大きなクラフト紙を、みんなで協力して棒状に丸めていく。「端がずれないように真つすぐにね！」。声を掛け合いながら、ゆっくりゆっくりと慎重に進めていく。完成すると、どの子の身長も優に超える高さになった。これはいろいろな長さに切って、穴を開けてひもを通していく。「日本にはない楽器だし、友だちにも自慢できる。どんな音が出るか楽しみ！」。平和通小学校の曽我



丸めたクラフト紙を棒状に切って、長い順にひもでつなげていく。「うーん、穴が小さくて通らない！」

一面に大きな地図が映し出される。「この10カ国がASEANのメンバーです」。

先生役を務めるのは、現役の小学校教員でJICA北海道で研修中の東峰宏紀さんだ。「今日は北海道大学で勉強しているベトナム人留学生フォンさんに来てもらいました。子どもたちが興味津々でフォンさんに目を向ける。

まずは彼女の母国ベトナムについて、インターネットを使いながら勉強。面積、人口、言語、首都…。ワークシートの項目を一つ一つ埋めていく。「首都はハノイ？場所は？」「面積は一、十、百、千」。グループに分かれて奮闘する子どもたちの姿を、付き添いのお母さんたちが目を細めて見守る。「貧しい国の子どもたちをテレビで見て、娘が興味を持ったようです。世界のことを学べるチャンスを探していて、JICAのホームページにたどり着いたんです」。札幌市立札幌小学校に通う渡辺恩彩ちゃん（6年生）、恩花ちゃん（4年生）姉妹のお母さんはそう話してくれた。

続いて質問タイム。フォンさんから現地の話が聞けるとあって、みんな大張り



完成したトルン。「これで夏休みの自由研究はバッチリ！」



手作りの楽器の材料はクラフト紙。みんなで協力して丸めていく



インドネシアの打楽器「アングルン」の演奏にも挑戦。上手にできました！

